

乙川リバーフロント地区まちづくり
まちなか未来戦略フォーラム

私たちの QURUWA 戦略

QURUWAとは
園田公園、リぶら、乙川河川敷など主要な公
共空間を結んで一周する動線が、アルファベ
ットのQの字に見えることから、ローマ字
でKURUWAの隣文字KをQに置き換え
QURUWA(くるわ)と名付けています。

日時：2017年3月21日〔火〕18:30-20:30
会場：岡崎市図書館交流プラザ・リぶらホール

方針 ライフスタイルデザイン

A. 暮らしの質を高める事業や活動を生み出す

【キーワード】 都市型産業：働き方改革、女性の起業、アウトドアオフィス
循環型産業：額田の木材活用、エコ×エネルギー×住宅、
健康な食産業：地産地消、商品開発 など



アウトドアオフィス体験会@乙川河川敷



ママたちが輝く場づくり

方針 都市デザイン

B. エリアの個性を活かした空間と体験をデザインする

【キーワード】 ストリートデザイン、歩行者空間の拡大、軒先・軒下活用、
交通計画（トラフィックセルの導入）、コミュニティ交通、
駐車場再配置、シェアサイクル・レンタサイクル、社会実験、
エリアプロモーション：サイン計画、地域インフォメーション
景観ルールの設定、歴史まちづくり



歩行者空間拡大の社会実験（ラトビア）

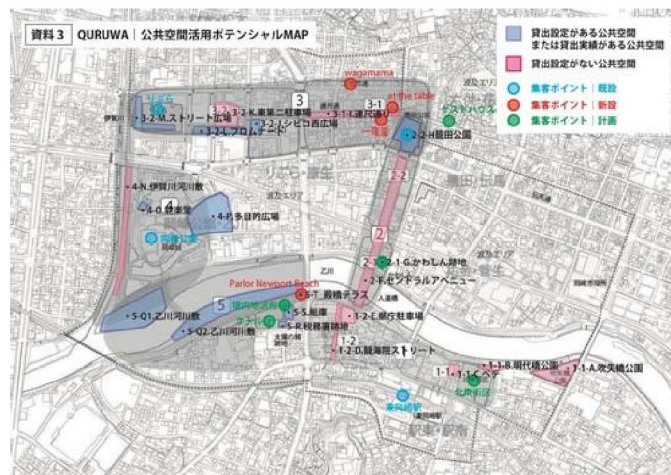


シェアサイクル（イメージ）

方針 エリアマネジメントデザイン

C. 核となる拠点や施設を周囲と一体的に管理・運営する

【キーワード】 敷地主義からエリア主義へ



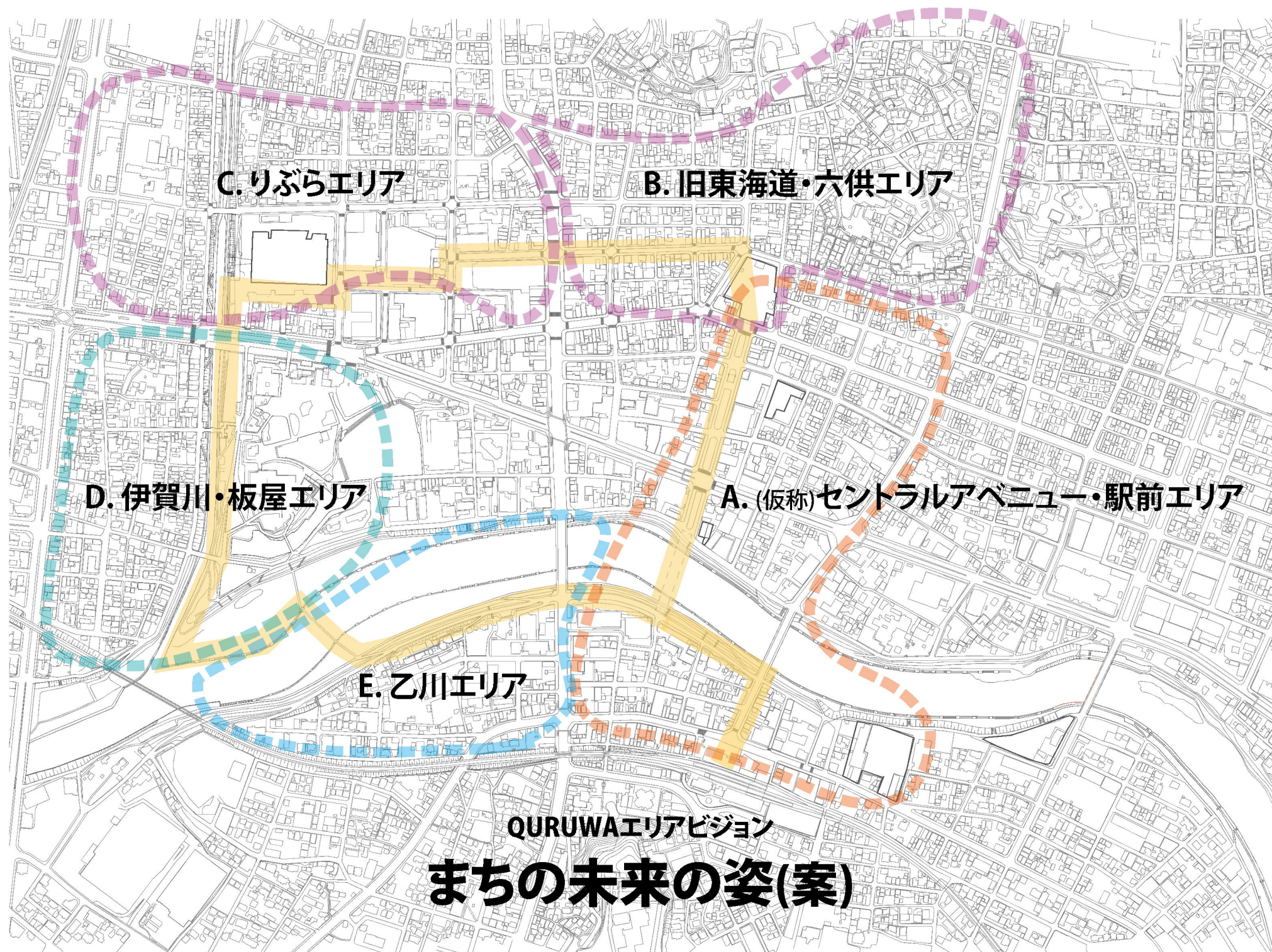
方針 公民連携デザイン

D. 公益性と収益性を兼ね備えた公民連携プロジェクトを生み出す

【キーワード】 公共空間：人道橋、中央緑道、籠田公園、かわしん跡地、
太陽の城跡地、りぶらプロムナード、
りぶら東第二駐車場 など
→パブリックマインドを持った民間事業者に貸し出し、
収益を上げながら魅力的なコンテンツや
質の高い公共サービスを提供



オガールプラザ（岩手県紫波町）



C. りぶらエリア

B. 旧東海道・六供エリア

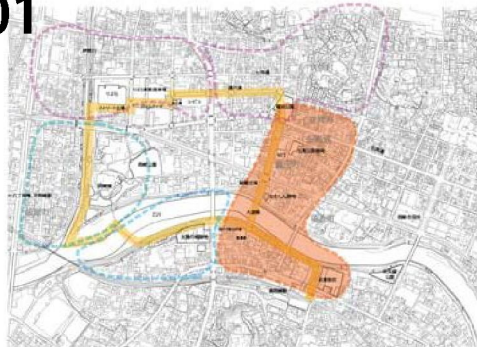
D. 伊賀川・板屋エリア

A. (仮称)セントラルアベニュー・駅前エリア

E. 乙川エリア

QURUWAエリアビジョン
まちの未来の姿(案)

01



A. (仮称) セントラルアベニュー・駅前エリア

02



乙川には人道橋が架けられる

03



その先の中央緑道と籠田公園も再整備される

04

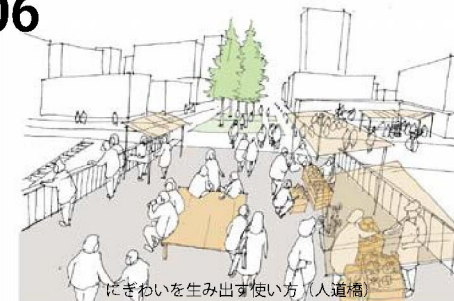


再整備後の使われている姿がイメージできない。

05

どうしたら公共空間は
使われるのか？

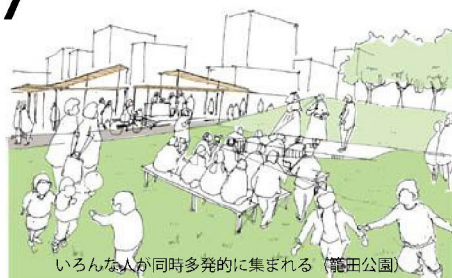
06



にぎわいを生み出す使い方(人道橋)

周辺で暮らす人、この場所を使う人、訪れる人
一人ひとりが再整備されるこれらの場を「自分の
ニワ」として捉えて、親しむを持つことが必要

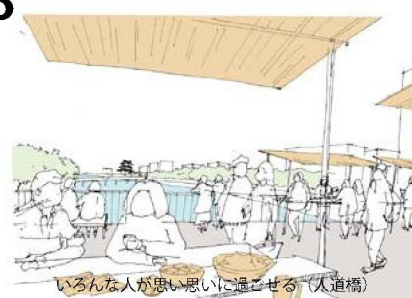
07



いろんな人が同時多発的に集まれる(籠田公園)

「ニワ」=自分たちで手入れをして、日常的に
使う場所。自分たちのやりたいことが自由にで
きる場所と居心地のよい場所を自ら創りだして
いく。

08



いろんな人が思い思いに過ごせる(人道橋)

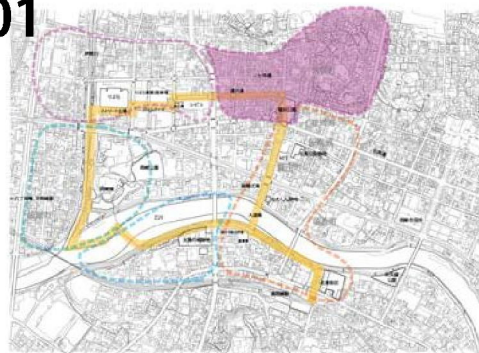
動線よりも交流の広場として
街の外からも人が来なくなる橋

09

誰もが見て感じ取れるこれらの公
共空間を、「自分のため、みんな
のための空間」として位置づけ、
市民が主体となって自由に活用運
営できる公共空間の新しい仕組み
をつくっていきます。

合言葉は、「公園を民園に」。

01



B. 旧東海道・六供エリア

02

木造建物が密集している地区の
個性的なまちなみ

03



この場所ならではの人のつながり

04

空き家・空き地が点在していて、
これからもっと増えそう

05

個性的なまちなみは
どうすれば残せるか？

06

暮らしの一部をシェアするみんなのリビング
ここにしかない暮らしの息づかいが
感じられる住まい方や働き方

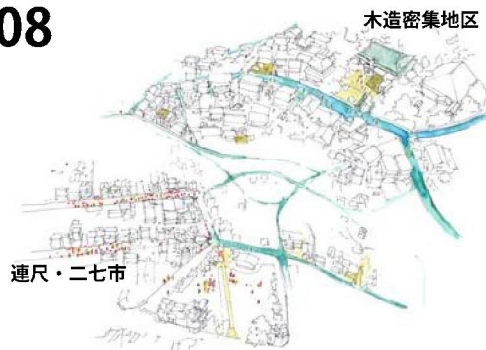
07



子連れでも働ける近所の見守り付きのオフィス

「職住隣接」の暮らし方を実現

08



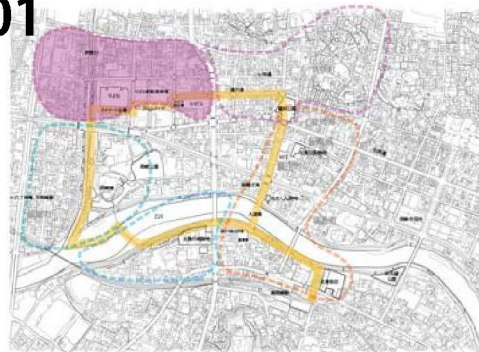
木造密集地区から連尺・二七市への人の流れをつくり、住むことから商業の活性化を目指す

09

- ・まちへの参加の仕方を一人一人が発見する
- ・参加のきっかけをみんなでつくる

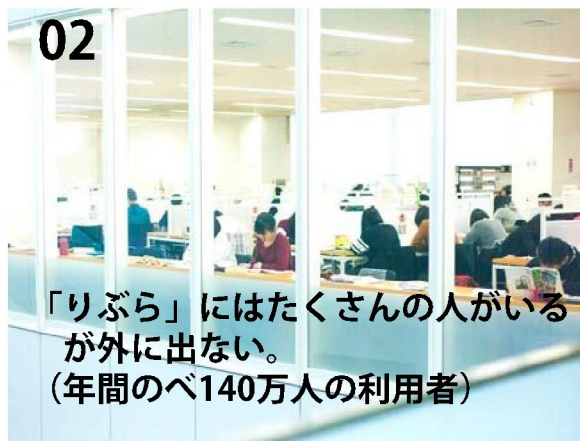
→移住や出店など限られた人だけがまちに参加するのではなく、ただ見守っている人や理解している人、発信する人など関わり方は多様。

01



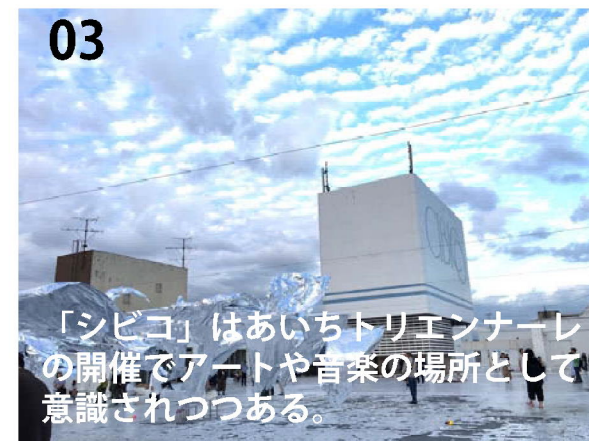
C. りぶらエリア

02



「りぶら」にはたくさんの方がいるが外に出ない。
(年間のべ140万人の利用者)

03



「シビコ」はあいちトリエンナーレの開催でアートや音楽の場所として意識されつつある。

04



「りぶら」と「シビコ」の間にあるプロムナードと駐車場には、ほとんど人がいない。

05

「りぶら」を訪れる
たくさんの人たちは
どうしたらまちなかに
足を運ぶか？

06



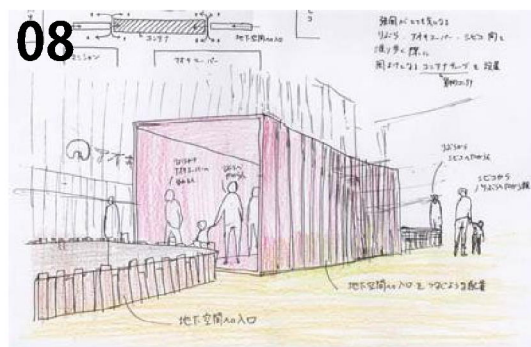
公園も駐車場も英語では同じ「Park」。いまは車を停めているスペースを、人が留まる場所に作り変える。

07



2つの建物の間にある駐車場を公園化して、子どもやアーティストが表現し、成長できる場所にする。

08



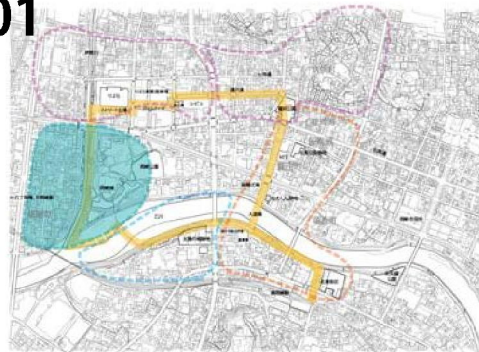
りぶらとシビコをつなぐ道に風除けのコンテナチューブを設置して、アート作品を鑑賞

09



「りぶら」を訪れるたくさんの人たちが「シビコ」や康生エリアなどのまちなかに流れ、まちににぎわいを取り戻す

01

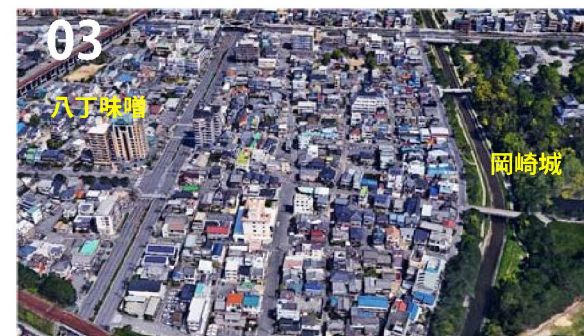


D. 伊賀川・板屋エリア

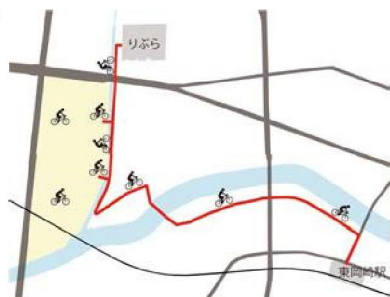
02

国道と河川によって周囲と
分担されている

03

2つの観光拠点に挟まれているが、
その雰囲気は感じられない。

04

自転車だと道路を使わずに「りぶら」
や「東岡崎駅」方面に行ける

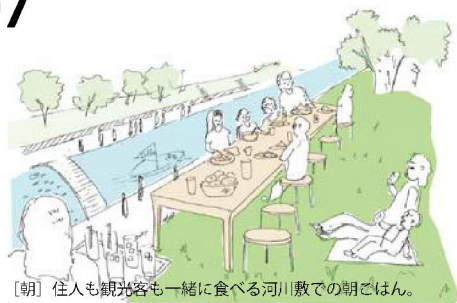
05

伊賀川の豊かな河川敷が
一番のエリアの価値

06

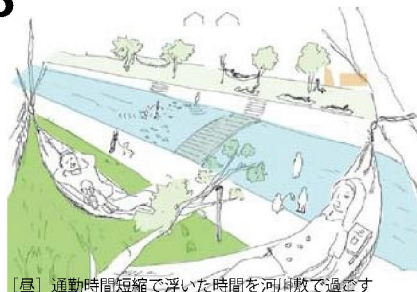
伊賀川のポテンシャル
を活かすにはどうすれば
良いか？

07



【朝】住人も観光客も一緒に食べる河川敷での朝ごはん。
豊かな自然環境を最大限に活かし、
楽しみ、使いこなす暮らし方
＝「遊ぶように働く超職住近接ライフ」

08



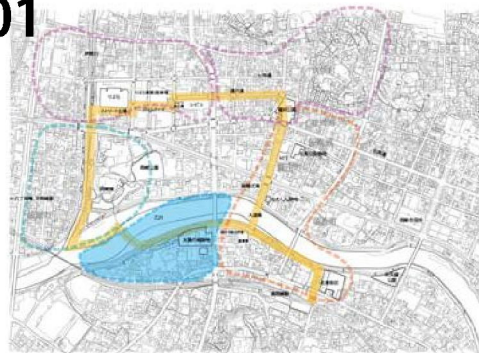
【昼】通勤時間短縮で浮いた時間を河川敷で過ごす
公園の中に暮らしているような、遊び
と暮らしが近づいた、ここだけの特別
な暮らし方

09



【夜】大人の時間を楽しむ
暮らしによりエリアの価値を向上させ、
住みたい人・店舗が増え、観光客も訪れ
るエリアになり、まちに回遊性を生む。

01



E. 乙川エリア

02

歴史・文化と自然が交差する乙川は、
岡崎市民にとって誇るべき宝物

03



ゴミ たくさん

04



殿橋交通量

自転車 23,500台/日

歩行者・自転車 2,000人/日

名鉄鉄橋を通る名鉄電車

平日 250本/日

休日 300本/日

05

通り過ぎるだけの川に、
どうしたら人は来てく
れるのか？

06

殿橋橋詰と太陽の城跡地はQuruwa
の中でも重要な通過交通との結節点

07

通過する人と川との接点となる橋詰に
人が楽しんでいる風景をつくる

08

お城や川が眺められるデッキで
思い思いの時間を過ごす (乙川テラス)

09

水辺と人との関係を結びなおす。

お城を望む水辺の舞台で普段の営み
が豊かになり、そうした豊かな営みが
水辺ににじみ出すことで、まちの風景
に艶が生まれ、そのことが新たな人
を招く。

人が集まることで川への関心が高ま
り、川をきれいにしようという意識が
芽生える。